

令和7年度 医師及び看護師等の業務負担軽減のための取組（R7. 4-6月期）

令和7年6月30日現在

							【D0】	【CHECK】	【ACT】
	分類項目	取組主体	取組項目		取組方向	診療報酬	取組結果（7年度第1期（4～6月）まとめ）	評価結果	第1期の取組結果を受けての今後の活動方針
1	A-1-(1)	診療部事務局 (総務課)	医師の負担軽減対策	医師確保	・救急の専門医確保を目指す。 ・救命救急分野に従事する若手医師を育成するため、シニア確保を目指す。	有	・1月から大学より3ヶ月交代でシニア医師が赴任し、救急科配置医師は3名が続いている	△	・招聘医師数は維持する ・現在の配置数を維持するため大学への働きかけを継続する ・公募も継続する
2	A-1-(3)	診療部事務局 (総務課)	医師の負担軽減対策	医師時間外管理	・毎月開催される診療部科長会議で状況を共有し、各部科長のマネジメントに役立てる。 ・時間外勤務の縮減が進まない診療科においては、院長、副院長等と対策を検討する。	-	・追加的健康確保措置に伴う面談を継続している ・毎月、診療部科長会において時間外等の状況を報告し、共有化をはかっている ・医師の時間外減少傾向はR7年度も続いている	△	・R6年度の時間外等の結果を踏まえB水準認証病院として現在の労働時間短縮計画を推進する ・診療科と情報共有を続け、全体的な時間外縮減と月時間外100時間以上者の削減に注力する
3	A-2-(2) B-2-(2)	薬剤部	医師と他職種との役割分担	薬剤部取組	・病棟に薬剤師を完全配置し、入院患者の服薬指導、持参薬管理等を行い医師、看護師の負担軽減に寄与する。	有	・6月末時点での病棟薬剤師配置数は10名です ・全病棟において薬剤師による持参薬入力を実施しており、服薬指導も積極的に進めている	△	・4月から病棟薬剤加算を算定を開始したので、その維持に注力する ・服薬指導の件数は平均で月約480件であり、今後、件数の増加を図っていく
5	A-2-(8) B-2-(7)	事務局 (医事経営課)	医師と他職種との役割分担	医事経営課の取組	・引き続き外来の効率的な運営に必要なとなる医師事務作業補助者(MA)の配置先、必要数を外来運営委員会等で精査し、MAの確保に努める。 ・また、採用したMAが定着し、MAとしての役割を十分努められるよう、教育研修を行う。	有	・R7. 4にMA2名、R7. 6にMA1名を採用した ・脳神経外科におけるJNDの入力者を1名増員 ・電子カルテの文書管理に『身体障害者』と『自賠責』の診断書のフォーマットを設定し、手書きからパソコン入力へ変更した ・脳神経外科における転院時等のCD-R作成のオーダー業務を実施（継続）とともに、退院サマリーにおける入力箇所を追加 ・心臓血管外科のクラークの配置時間を、予約患者数の多い日は外来師長からの依頼により延長した（継続） ・複数部署業務を遂行できるようスタッフと面談を行い、配置やシフトを調整した	△	・文書作成の新人育成(指導者/指導方法)の見直しを続け、定着を図る ・複数部署業務が可能となるよう配置やシフト調整を続ける ・価格交渉を含めて、人材派遣会社への働きかけ強化 ・30:1加算以上の取得を維持する ・肝炎コーディネーターを増やす ・MA業務を行う診療科を拡充する ・診断書作成支援システムの導入を目指す ・外来運営委員会であり方検討を開始する
6	B-1-(9) B-2-(7) C-1-(2)	リハビリテーション室	看護師と他職種との役割分担	リハビリテーション室の取組	・病棟ーリハ室間の患者送迎の集約化と効率化に取り組み、看護、リハ両部門の負担軽減を図る。	-	・昼食前や終業時間前などの看護師の業務を考慮し、当該時間帯の患者送迎を可能な限り行なっている ・今後の業務の継続について看護部等と協議を開始した	○	・お昼の休憩時間帯など現在定着している部分を当面継続して行うことになり、進捗管理も今期までとする
8	A-2-(1)	看護部	医師と他職種との役割分担	看護部の取組	特定行為研修を終了した看護師を計画的に増やし、分野を拡大し、医師の業務軽減に寄与する。	-	・創傷管理関連、集中治療、栄養及び水分管理分野の特定行為認定看護師(3名)が院内において活動中 ・R6年度に研修が終了した1名が集中治療分野で院内で活動を開始した ・心不全分野1名の研修先等が決定した	△	・創傷管理においては医師の代わりに一部処置検査などの代行入力を行う ・集中治療分野での活動を2名で本格的に救命救急センターで開始する ・更なる分野の拡大を検討する
9	A-2-(6)	臨床工学室	医師と他職種との役割分担	臨床工学室の取組	手術室、内視鏡室に臨床工学技士を常駐(専従)させ、これまで医師及び看護師が行ってきた業務を担う。	-	(手術室) ・毎日2名が常駐(1名は専従) 搬入92件/準備400件/点検573件/立会285件/トラブル対応11件/ スコープオペレータ業務 5件 (内視鏡) ・対応90件(ESD, ERCP等)	△	・スコープオペレーター業務等を増加させる ・内視鏡対応症例の拡大・対応時間帯の拡大 ・手術介助業務の検討 ・消化器内視鏡技師の育成 ・内視鏡室での機器管理の充実
10	A-2-(4)	中央検査部	医師と他職種との役割分担	中央検査部の取組	NICU設置のA-EEGの検査についてルーチン帯の検査、検査結果の電子カルテ取り込み、NICU以外での機器の活用法などを模索し業務負担軽減に繋げる	-	・ICUでの取り組みとしては現時点では終了とした ・生理検査のスタッフ全員が対応出来るようにするために、業者を呼んで勉強会を開催した。 ・マニュアル作成を進めた。	△	・電子カルテへの取込み等も考慮し進めていく。 ・看護師、医師への操作説明会を計画している。

						【D0】	【CHECK】	【ACT】	
	分類項目	取組主体	取組項目		取組方向	診療報酬	取組結果（7年度第1期（4～6月）まとめ）	評価結果	第1期の取組結果を受けての今後の活動方針
11	a-2-(4)	中央検査部	医師と他職種との役割分担	中央検査部の取組	血液型の亜型や不規則抗体陽性者への患者説明に同席し、業務を補助する	-	・準備が整い4月より実施可能ではあるが依頼がほぼ無い状態である。 ・6月 1件	△	実運用にむけて臨床側に働きかけていきたい。（依頼方法等も詰めていく）
12	A-2-(3)	中央放射線部	医師と他職種との役割分担	中央放射線部の取組	法令改正により技師が造影剤の着脱を含めた取扱いが可能となったため、救外を除く午前中の造影CT及び頭部CT-A検査の造影剤着脱を技師が行なうことで、医師の業務負担軽減に繋げる	-	・4月 15件 ・5月 15件 ・6月 13件	○	・条件下において概ね施行できており、業務を継続する ・条件の緩和を検討し、業務の拡大を目指す
13	B-2-(3)	中央放射線部	看護師と他職種との役割分担	中央放射線部の取組	3TMRIの造影剤着脱は看護師にお願いしていたが法令改正により技師が行えるようになったため、末梢確保されている事例に限り技師のみで造影検査を完結させる	-	・4月 36件 ・5月 39件 ・6月 21件	○	・条件下において全例施行できており、業務を継続する ・条件の緩和と対象の拡大を検討する
14	B-2-(4)	中央検査部	看護師と他職種との役割分担	中央検査部の取組	各病棟の心電図及び各病棟、救急外来の心電図Ns. のポータブル対応（患者の移動による看護師の負担軽減と医師への正確な心電図の提供）	-	・4月 70件, 日中ポータブル12件 ・5月 78件, 日中ポータブル13件 ・6月 51件, 日中ポータブル7件	△	・ポータブルで検査済みの患者さんが検査に来たりするので病棟での更なる周知を促す。 ・今後救急外来への対応も広げていきたい

* No. 4, 7欠番